



〈公開〉 生と死とその後

死生学研究

- | | | |
|--|---|-----------------------------|
| □会場 東洋英和女学院大学大学院
(六本木) 201教室
東京都港区六本木5-14-40 | □最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分) | □参加費 各回500円
本学院在校生・教職員無料 |
| □先着 100名様 | □事前申込み 不要 | |

第4回連続講座

矢吹和美 (やぶき かずみ) 本学人間科学部教授

10月8日(土)

13:00-14:30

(受付12:30から)

*通常より開始時間が早いことに
ご注意ください

■プロフィール

静岡大学大学院人文社会学研究科教授を経て
2001年から現職。臨床心理士。東洋英和こころ
の相談室にて心理臨床実践に携わっている。

■主要業績

『病気の子どもたち』(共著)中央法規出版、
1980年。『人間の発達と生涯学習の課題』(共
著)明治図書、2001年。

想像力のもたらす死と再生の体験

内容紹介: 近づく死を意識せざるをえない状況にある者は、
心理学的に心の世界の崩壊(死)をもたらすような心の危機を
体験している。かつて私たちは、通過儀礼をもって崩壊した世界
の再構築(再生)を試みてきた。そこでは、先達者の導きのもと
で、死に行く者は、人間の存在様式が、限界性のある身体的
存在から永遠性をもつ霊的存在へと変容していく過程を生きた
ものとして体験してきた。本講では、近づく死を意識せざるをえ
ない病児が、想像活動を通して、今日ではその意味と機能を失っ
て久しい通過儀礼にみられたような変容の過程を、生きたもの
として体験していくことができた過程について述べようと思う。

第5回連続講座

久保田まり (くぼた まり) 本学人間科学部教授

10月8日(土)

14:40-16:10

■プロフィール

早稲田大学大学院文学研究科博士課程(心理学専攻)
修了。博士(文学:早稲田大学)。専門は、発達心理
学。特に母子関係や愛着の問題を専門としている。昭
和大学保健医療学部教授を経て、2004年より現職。

■主要業績

『アタッチメントの発達』川島書店、1995年。『早期
関係性障害』(翻訳)岩崎学術出版、2003年。『共同
注意の発達と臨床』川島書店、2004年。『アタッチメ
ント—子ども虐待・トラウマ・対象喪失・社会的養護
をめぐって』(共編著)明石書店、2008年。

対象の喪失と内なる再生—愛着の彼岸

内容紹介: 伴侶、子ども、大切な人を失ったことの悲嘆
反応や悲哀の過程については多くの研究が蓄積されてい
る。本講義では、対象の喪失の悲嘆から次第に心が回
復していく過程についての、フロイトとボウルビイの対照的な
理論的立場を確認した上で、ボウルビイの愛着理論に由
来する「対象の内なる再生」について考えていきたい。具
体的には、親を失った子どもの事例、伴侶を失った成人女
性の事例などを参照しながら、“continuing bonds”(途切
れない絆)をキーワードとして、死別者の内的世界の再構
成を「対象との二人連れの世界」「(対象に)見守られ、抱
えられた世界」ととらえて考察したい。

〈予告〉10月29日(土) 14:40~17:50 「生と死」研究会第10回例会(財)国際宗教研究所共催
シンポジウム テマ「生者と死者の交流」

小川有閑(国際宗教研究所研究員) 自死者と遺族の対話
西尾温文(順天堂大学医学部附属順天堂医院がん治療センター臨床心理士) 親を亡くした子との交流
棚次正和(京都府立医科大学大学院研究科教授) スピリチュアルケアと人間の存在構造

お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp
03-3583-4035 (fax専用)